

第12回中国大学生「走近日企・感受日本」 訪日団報告書の刊行にあたって

本報告書は、中国日本商会会員の総力を結集し、関係各位のご協力を得て実現した「走近日企・感受日本」事業の第2弾第2回訪日団の報告書です。

第1弾は2007年から2012年まで、合計10回、中国大学生からなる訪日視察団を派遣し、28大学294名が参加しました。日本商会は、第1弾終了後も、引き続き未来の中国を担う若い世代である大学生に日本および日本企業を知ってもらうことが大切であるという総意の下、第2弾の実施を決議し、3年間で6回、計210名の学生を派遣するために、会員から新たに1億5千万円の寄付を募り実施の運びとなりました。

通算で第12回目となる今回は、清華大学、中国農業大学、中国人民大学、對外經濟貿易大学、北京外国語大学に、中日友好ボランティア枠として北京郵電大学を加えた6大学から合計35名を選抜して2013年5月26日から6月6日までの12日間、日本に派遣しました。また、5月21日に開催された壮行会には、第11回訪日団に参加した学生も参加し、交流の輪が広がりました。昨年9月以降日中関係が厳しい状況となりましたが、このような時期だからこそ、これまで以上に両国国民の相互理解を深める必要があると存じます。特に中国の若者と意見交換や意思疎通をしたいという日本人がたくさんおり、12日間の行程が成功裏に終了したことを心から喜んでおります。

視察企業は、島津製作所(京都)、ハウス食品静岡工場(静岡)、テルモメディカルプラネックス(神奈川)、住友商事(東京)、三井化学市原工場(千葉)、新日鐵住金君津製鉄所(千葉)、みずほコーポレート銀行(東京)、ニューオータニホテル(東京)の8社。その他、静岡県農林技術研究所、農林大学、中国大使館訪問、新江東清掃工場、日比谷松本楼の見学、日本の大学生(京都大学、早稲田大学)との交流、日本のソフトパワーの代表例である「三鷹の森ジブリ美術館」の見学、一泊二日のホームステイ体験など多岐にわたるプログラムが組み込まれています。ホームステイ受入に協力いただいた企業は15社(アルプス電気、伊藤忠商事、島津製作所、新日鐵住金、住友商事、全日空、テルモ、トヨタ自動車、日本航空、丸紅、みずほコーポレート銀行、三井化学、三井物産、三菱商事、三菱東京UFJ銀行)にのぼっています。

このように「走近日企・感受日本」事業は、中国日本商会の会員企業の協力によって実施されています。また、共催団体である中国日本友好協会にも全面的な協力をいただいております。訪日団の日本受け入れ、本報告書の編集にあたっては、一般財団法人日中経済協会にご尽力をいただいております。加えて、寄付金の管理は、中国側では中国友好和平発展基金会、日本側では公益社団法人企業市民協議会(CBCC)にご協力をいただいております。改めて、本事業実施にご支援、ご尽力をいただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

本事業が日中相互の国民レベルでの理解促進の一助となり、将来さらに大きな実を結ぶことになれば、これに勝る喜びはありません。

中国日本商会 会長 松井俊一

2013年6月